

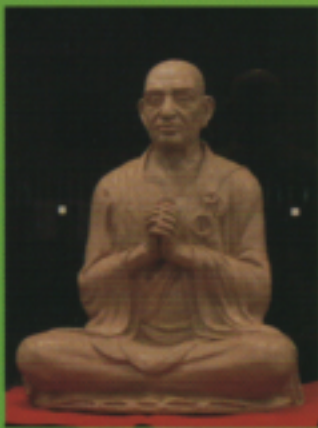
東大寺の大仏開眼導師をつとめた菩提僊那

菩提僊那は遣唐使の要請で仏教の教えを日本に伝えるため、一度は暴風に遭い引き返しましたが、天平8年(736年)5月18日に二度目の航海を経て太宰府に到着しました。菩提僊那は当時、東大寺と並び大寺院であった大安寺においてサンスクリット語をはじめ、仏教の教えを日本僧に伝え、天平勝宝3年(751年)には僧正という非常に高い位に就きました。

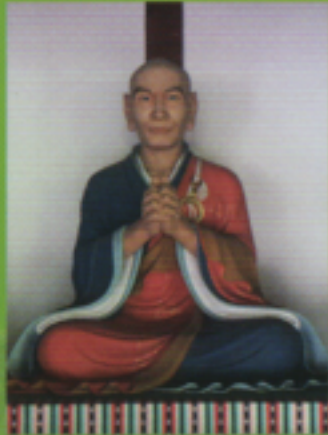
聖武天皇の詔により天平15年(745年)から現在地での建立が始まった東大寺盧舎那仏の開眼法会は、天平勝宝4年(752年)4月9日に執り行われました。菩提僊那は聖武上皇の勅書を受け、上皇の代わりに開眼導師をつとめました。開眼の筆には縹(はなだ)色の縷(る)(全長198m)が結ばれ、会場に集う人々がこの縷を手に持ち、開眼の瞬間に結縁しました。1万人を数える僧侶も参加したと伝えられます。

大仏を開眼した菩提僊那は、東大寺では大仏建立発願者である聖武天皇、大仏建立の軟進をした行基、東大寺初代別当の良弁と共に東大寺「四聖」と呼ばれ称えられています。

大仏を含め東大寺の建立には当時の日本の人口の半分ほどの人が延べで関わったと言われています。盛大な開眼の催事は現代と比較するならば、オリンピックの数十倍と言えるのではないのでしょうか。その導師をつとめたインド僧の生涯は、私たち現代人にとって大きな感動を与えます。



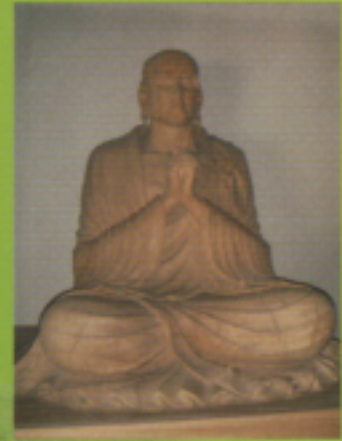
インド大使館の協力のもと
2015年に制作された
菩提僊那像



東大寺 菩提僊那像



大安寺 菩提僊那御影
菩提僊那は大安寺に住していた



靈山寺 菩提僊那像
菩提僊那のお墓がある靈山寺

菩提僊那継承事業

菩提僊那は記録史上、日本に初めて来たインド人であり、開眼導師をつとめた功績は大きなものです。2012年、インド政府は日印国交樹立60周年の記念催事として、菩提僊那を1276年の時を経て継承しました。その後も毎年、インド大使館や東大寺にて開催して参りました。昨年、インド大使館の協力のもとインドで制作された菩提僊那像が同催事で公開され、その後もインド大使館をはじめ全国各地で公開されました。今年の5月には、台湾台北市でのアジア・インドフェスティバルで公開されました。



2012年8月
東大寺大仏殿前にて
ドゥルパッド
音楽奉納



2012年5月
東大寺中門前にて
オリッシー舞踊奉納



2014年5月
東大寺中門前にてカタカリ舞踊奉納

Message メッセージ

Most of us are aware that India and Japan share a deep civilisational link. Buddhism has played an enormous role in laying the foundation of this age old relationship between our two countries. The arrival of Bodhisena, an Indian monk, on the shores of Japan in 736 AD is amongst the oldest documented cultural and religious link between India and Japan. Bodhisena went on to perform the "Eye-Opening ceremony" or consecration ceremony, of the Great Buddha Image at Todaiji Temple, Nara in 752 AD.

At that time, Todaiji was the chief temple in the national system of monasteries known as Kokubunji, and a center for rituals for the peace of the nation and the prosperity of its people. It also functioned as a center for the training of scholar monks who studied Buddhist doctrine. Bodhisena held discourses with several leading scholars of the time on Buddhist thought, philosophy and teachings. Lord Buddha's message of universal brotherhood, non-violence, and selfless service to humanity continues to be relevant to this day and age.

The Indian classical violin concert at Todaiji temple on 5 August 2016 and at Ryosenji Temple on 6 August 2016, by Ms Anupriya Deotale, is a celebration of India - Japan connection through Bodhisena at both temples, our shared heritage, as well as our multidimensional relations.

多くの方がご存知の通り、インドと日本には深い文明的なつながりがあります。仏教はそうしたはるか昔から続く両国関係の礎として重要な役割を果たしています。736年、インド僧菩提僊那による来日は、インドと日本の文化的及び宗教的な関係において最も古い史実として記録されています。その後、菩提僊那は752年に行われた東大寺の大仏開眼供養の導師を務めました。

当時、東大寺は全国に建立された国分寺の中心をなす寺院と位置付けられ、国家の安寧と人々の幸福を願う地でした。また、多くの学僧の研究と学びの場としての役割も果たしていました。菩提僊那もまた、仏教の教えや思想、哲学などについて名だたる学者たちと議論を交わし親交を深めました。仏陀が伝えた人類の共生、非暴力、献身といった教えは、今日にも通じる恒久的なものです。

2016年8月5日に東大寺にて、そして翌6日に靈山寺にて開催されますアヌプリヤ・デオターレ氏によるインド古典バイオリン公演は、菩提僊那とゆかりのある両寺院という印日共通の歴史遺産を訪れ、両国の多岐にわたる関係を祝う機会となることでしょう。

T. Armstrong Changsan
Consul General
Consulate General of India, Osaka-Kobe



在大阪・神戸インド総領事館
総領事
T. アムストロング チャングサン